

新年度各部長の抱負を伺いました。

新しい期を迎えて

塩山 耕司

私も今期で六年目を迎える事になります。入会当時の協会の活動と言えば、ガイド時の知識の拡充がメインであったように思います。今では、知識のみならず、礼儀の教育や協会の相互親睦、地域社会貢献等、多方面に活躍の場が拡大しています。

「ボランティア」という言葉の定義も、基本的には「自主性」、「社会性」、「無償性」が言われていますが、時代も変わり、人数も多くなっている中で、我々なりに、もう一度見直す時期かとも思います。しかしその根源となる資金が不足しています。班長の通信費補助、マイクスピーカーの交換、協会内行事（研修旅行等）への補助、当日ガイド空振り時の補助、バラバラに成りつつあるユニフォーム新調、情報発信費用等々。

お客様からの我々ガイドに対する温かいお言葉に心が癒される日々を送っていますが、ただ単なるボランティア精神だけに頼ることなく、気持ちよくガイドが出来るような仕組みを考えていきたいと思えます。普通の会社教育と異なり、協会内には価値観が多様化しています。進め方には注意して行きますが、御協力の程よろしくお願いいたします。



二〇一八年度のガイド部は

ガイド部 宮津 多佑

「やっぱり、ガイドさんについてもらってよかったわ。」「ガイドさんの話を聞いて八幡が判った。」とのガイド後の感想を聞くことも多いかと思えます。一年のふるさと観光塾で、物産協会の田中さんから「観光ガイドは大きな観光資源のひとつである。」と表現されました。

近江八幡は、単に見て歩くだけでは判りにくい観光地だと思います。このことからガイド活動の重要性が高いと感じている会員も多いと思えます。ガイド部は、お客様と直接関わりあつて、お客様の満足度を高めていく手段や手法を会員の皆さんに提供していく組織でもあります。年間で、二・五〜三・五万人をご案内していますが、それでもラ・コリーナを訪れるお客様（二二三万人）の1%を少し超える程度です。お客様にとって近江八幡観光の魅力度をさらに高めていくために、ボランティアガイドその質と量をさらに増やしていく必要があります。ガイド部として、二〇一八年度は、

・量を増やすために

- ① 四名の新入会員には早く実践で活躍していただけるよう支援していきます。
- ② 今年度は、初めての試みですが「ガイド養成講座」を開催し、より多くの市民の方にボランティアガイドになっていただきます。

- ③ お客様の多様化に応じて、実践に即した学習・実地研修を行っていきます。

・質を高めるために

- ① 今年も「フアローアップ研修」を継続・充実させていきます。基本を守りながら、状況に応じてフレキシブルな対応ができるようになっていただきます。
- ② 会員の皆さんの自発的な活動や自己研鑽を呼びかけていきます。

等に取り組んでいきます。会員の皆さんの現有のスキル・状況より、もう一步とはいませんが、半歩を踏み出していきたいと思えます。

最後になりますが、ガイド部は会員皆さんの「庶務係」でもあります。ガイド活動に関して、どんなことでも結構ですので、ご意見やご要望をどんどんお寄せください。

